



2023 年度
第 42 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
金メダル取ったら
軍隊に
行かなくてもいいかな？



2
障害者選手たち
彼らの立場に
もう少し近づこう



3
選手をいじめた
指導者名簿公開「0件」
文化体育観光部
「法が曖昧で」



4
「お姉さんたち」の
バレーボール授業
ホホ体育館を
ご存知ですか？



5
全国体育大会
7日間の熱戦仕上げ
MVP
ファン・ソンウ



大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



01 京郷新聞 2023. 10. 20

金メダル取ったら軍隊に行かなくてもいいかな？



金メダルと兵役の恩恵

「アジア大会金メダル」は男性選手にとって「アジアで1位」以上の意味を持ちます。 体育要員として代替服務ができる権限が与えられるからです。

今大会では42個の金メダルが出ました。 このうちサッカー代表チーム19人、野球代表チーム20人をはじめ、まだ軍隊に行っていない男性選手は今大会で「兵役の恩恵」を受けることになりました。

アジア大会が終わるたびに選手たちの「兵役免除」をめぐる甲論乙駁（訳注：こうろんおつぱく、甲が何か述べると、乙がそれに反対するというふうに、議論がいろいろ出てまとまらないこと。）が繰り返されます。 実は「免除」ではなく「代替服務」です。 体育要員になって4週間の基礎軍事訓練も受けなければならない、34ヶ月間544時間の「公益服務」もします。

代替服務ですが「免除」とされる理由は「公益服務」の性格のためです。 体育要員の場合、①選抜当時の体育種目の選手として活動すること、②大学で体育分野学科を専攻したり、当該種目で選手として活動すること、③体育指導分野で従事すること、④実業体育チームで該当種目の選手・コーチ・監督などとして従事することなどが公益服務に含まれます。 事実上体育をやめずに続けるという意味です。

経歴断絶がなく、出退勤ができ、収入にも影響がないなど現役軍服務と異なる点が多く、毎回関連大会が幕を閉じる時には「公平性」論難が提起されます。

1. 入隊は間もなく引退

男性選手1万7418人を13年間追跡観察し、軍服務形態による選手生活復帰の様相を調べた論文<エリート男性選手の軍服務別現業復帰率と選手経歴の比較分析>(2020 李オン他3人)を見ると、選手たちが体育要員を目標とする理由が統計で確認できます。

兵役義務者となった選手10人のうち9人(93.3%)が現役で入隊しました。 そして、このうち8人に1人(12.5%)だけが選手生活を続けました。 7人は除隊後、復帰できませんでした。

現役で軍服務した選手たちの平均選手経歴は2.46年で、他の形態で服務した選手たちより著しく短かったです。 免除を受けたり、国軍体育部隊・警察庁体育団で服務した選手、社会服務役(いわゆる公益勤務)を務めた選手、兵役特例を受けた選手の経歴は約10年にわたって続いたことに反してです。

「軍入隊による経歴断絶は一般人も体験することですが、スポーツ選手の場合、一般学生に比べて進路選択において選択の幅が狭いため、軍入隊による競技力減少および経歴断絶はより重要な事項だ。(中略)ほとんどの運動選手はあらゆる手段を動員して兵役義務を最大限延期し、運動選手としての生命を維持しており、軍入隊とともに引退を考慮している。」論文はこのように説明します。

国軍体育部隊はごく少数種目だけを運営し、年1回必要な時だけ断続的に人員を補充します。 警察庁の体育団は義務警察が廃止され、一緒に消えました。 体育要員は選手生活を維持するほぼ唯一の方法であるわけです。

2. 減らして直しても変な「兵役特例」

体育要員制度は維新時代の1973年に初めて作られました。当時はオリンピック3位はもちろん、アジア大会3位、ユニバーシアード3位、世界選手権3位以内に入れば「兵役特例」を与えました。韓国体育大学の卒業成績が上位10%であっても同じでした。国家レベルで選手を育成していた時代です。

まもなくオリンピックとアジア大会を除く大会は特例対象から除外され、アジア大会では1位にならないとすれば体育要員編入資格を持つことができません。

体育要員制度はその都度大衆の要求や国家に必要なに応じて一貫性なく運営されました。2002年ワールドカップでベスト16に進出した国家代表チームに「びっくり」の恩恵を与えたのが代表的です。当時、ワールドカップで良い成績を出す代表チームに兵役特例を与えなければならないという世論が大きかったです。政府は兵役法施行令に「ワールドカップサッカー競技で16位以上の成績を収めた人」を追加しました。

06年のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)の時も似たようなことがありました。国家代表チームがベスト4入りして話題になると、与党と政府がこれに便乗して突然代表チームに特例資格を与えることにしました。非人気種目の選手たち、アマチュア選手たちとの公平性がないという批判が提起されました。ワールドカップとWBCは特例対象からすぐに除外されました。

「団体種目の場合、実際に出場した選手のみ該当する」という条項も論難を起こすと消えました。2012年のロンドンオリンピックの時、日本との3位決定戦の試合で2対0で勝利が確実視されると、ホン・ミョンボ監督は試合終了まであと4分を残してまだ出場していない選手を投入しました。兵役特例を皆が享受させるために不必要な選手交代をしたという評価を受けました。国内外で嘲弄の種になると、この条項も2020年に削除されました。

国民大法学部のキム・ソンベ教授は「芸術・体育要員制度は変化する時代状況の中で計画的かつ体系的に予測可能に変化したのではなく、政治的意図や副次的目的のための手段として神聖な国防義務を変化させ即興的に恩恵を乱発し社会的無理が生じれば縮小する方向に非計画的に変化した」と指摘します。

3. メダル取ったら凱旋将軍？

体育要員の意味は兵役法第2条10の3に規定されています。

芸術・体育分野の特技を有する者で、第33条の7により編入され、文化の創達と国威宣揚のための芸術・体育分野の業務に従事する者

「文化創達」と「国威宣揚」。分かりそうで分からないです。意味を正確に知るために体育要員制度が作られた当時の状況を覗きました。東亜大学スポーツ科学部のチョン・ヒジュン教授の「スポーツコリアファンタジー」を参考にしました。

韓国の経済水準がタイ、フィリピン、北朝鮮より低かった1972年、維新体制が始まりました。朴正熙大統領は「新世紀体操」「国民体操」などを作り、「体力は国力」と強調しました。

その年の8月、西ドイツのミュンヘンで第20回オリンピックが開かれました。このオリンピックで韓国柔道ミドル級のオ・スンリプ選手が銀メダルを獲得します。ところで射撃で北朝鮮のリ・ホジュン選手が金メダルを獲得します。「解放後初の金メダル」を韓国より北朝鮮が先に胸に抱きました。北朝鮮はこのオリンピックで108カ国中22位に、韓国は33位にランクインしました。リ・ホジュン選手は記者会見でこんなことまで言います。「敵の心臓を狙う気持ちで撃ちました」。そして翌年、体育兵役特例制度が生まれます。

4年後、モンテリオールオリンピック。レスリング種目でヤン・ジョンモ選手が韓国初の金メダルを首にかけました。翌日、各新聞の1面はオリンピックのニュースで埋め尽くされました。京郷新聞も同じでしたが、1面に「太極旗の下で初の金メダル、レスリングのヤン・ジョンモ民族の念願成就」「金メダルがかかった瞬間、愛国歌が広がると涙だけ」などの記事を掲載しました。一部を見てみましょうか。

「中央に太極旗が掲揚され、モンゴル旗・星条旗が護衛するようになっていった。愛国歌がオリンピック史上初めて演奏され、場内に響き渡った。不動の姿勢で太極旗を注視していた両選手の両頬に、いつのまにか二筋の涙が流れた。隣の席で見守っていたキム・テクス体育会長、チュ・ジェグ団長らも皆同じだった」

2日後に帰国した選手たちにインタビューした記事にはこんな表現もあります。「激戦場の兵士のように自分の国を輝かせるという選手たちの使命感と精神力がモンテリオールの空に太極旗を次々と上げる原動力になった」選手たちは国家対抗「スポーツ戦争」の兵士で、メダルを取ると「凱旋将軍」になりました。

今の雰囲気とは全然違いますよね。「国家主義」時代の遺物である「国威宣揚」は、今や意味が大きく色褪せました。

4. 芸術・体育要員論委「足踏み」

50年前に作られた制度なので、体育要員制度は毎回まな板の上に上がります。

2018年ジャカルタ・パレンバンアジア大会の時も論争が熱かったです。当時、国防部・文化体育観光部・教育部などが参加する汎省庁合同TFまで作られました。「体育要員完全廃止」まで検討するとして乗り出したTFはこのような結論を2019年に出しました。

「制度維持が必要だと判断した。世界最上位水準の極少数の人材が厳格な選抜基準に従って編入され、該当分野での多様な活動で国民の士気を高め、国家品格を向上させるだけでなく、国民の芸術および体育活動にも寄与するところが大きいことを考慮すると、制度の持続運営が必要だと判断した」

国家代表選抜過程で公正性と透明性を強化すると付け加えましたが、やや薄い結論です。選手たちの入賞で"国民の士気が高まる"というのも時代遅れの診断です。

昨年、BTSの入隊を控えても兵役法の改正が取り上げられました。体育要員と一緒に管理される芸術要員は純粋芸術分野の大会入賞者だけを対象にしていますが、大衆文化もここに含めるか議論したのです。国会は最終的に立場を保留しました。

毎回問題がふくらみますが、芸術・体育要員制度はこれといった改善なしに現在まで維持されています。

今回のアジア大会以後、また体育要員制度が批判の対象になるや10月13日、イ・ギシク兵務庁長が関連TFを作ると宣言しました。"芸術・体育分野の兵役特例など補充役制度を総合的に検討していきたい"と。果たして5年前とは違う結論を下すことができるのでしょうか？

1. 兵力損失の影響は微々たるもの

国防総省は出生率の減少による兵力資源の減少に備えています。これに伴い代替サービスを縮小しなければならぬという立場です。代替サービスは"余剰兵役資源の効率的活用のために兵力補充に支障がない範囲内で運営"する制度ですからね。

しかし、産業技能要員と修士専門研究要員などの規模を減らしながらも芸術・体育要員制度には留保的な立場を取ってきました。実際、芸術・体育要員の規模は非常に小さいです。

兵務庁の統計によると1973年の制度施行から2021年までの体育要員編入人員は計979人です。毎年約20人くらいです。毎年20万人ほどが現役で入隊することを考慮すると、0.01%にも満たない数値です。芸術要員を合わせても40人規模なので、兵力損失に有意義な影響を与えるとは言い難いです。

2. 皆の事情を考慮する服務制度

しかし、スターたちが現役軍入隊をしない時、社会に与えるメッセージは強烈です。毎回「公正性」「公平性」の問題が提起されるのもこのためです。

現役軍入隊をする彼らとの「公平性」はどういうふうに確保すべきでしょうか。

青瓦台国家安保室、国防部戦力政策官室などで勤務したキム・シンスクさんの本<歴史と争点で探る韓国の兵役制度>からヒントを得ることができました。

「義務という名目で一律に負担を拡大することは警戒する必要がある。男性に課される負担が過度なら、これを緩和することに焦点を合わせなければならず、その負担を広く広めることは望ましい方向とは考えにくいという立場がある」

芸術・体育要員など代替服務制度を廃止したからといって、多数の除隊軍人男性が受けた不利益を実質的に補償されるわけではありません。体育要員制度を廃止するより、体育要員の長所を現役軍服務にも適用する方向を考慮してみることです。

程度の差はありますが、選手でない男性もキャリア断絶を経験するのは同じです。韓国女性政策研究院のパク・ソンヨン研究委員らは、<軍服務に対する社会統合的補償体系作りのための政策方案研究>で、男性1000人を対象に男性が軍隊でどのような不利益を受けていると考えているのか調査しました。最も回答が高かったのは"重要な時期の人生空白(48.2%)"でした。

その次に回答が多かった項目も「人生空白」の派生効果でした。回答者は「就職遅延にともなう経済的損失(16.0%)」「学業能力の低下(15.2%)」等が軍服務にともなう最も大きな不利益だと考えました。

体育要員制度とともに徴兵制自体を改善しなければならない理由です。体育選手であれ、体育選手でなくても軍隊がまもなく「人生の空白」にならないように服務者の立場で制度を振り返らなければなりません。

上記の研究で男性たちは「自己啓発のための自由時間確保」「除隊時に企業と関係した就職斡旋」「社会復帰適応プログラム運営」等を解決案として提示しました。

3. スポーツ、国威宣揚と競技場を越えて

「スポーツ選手の兵役問題に関する争点を『国威宣揚』に置くよりは、一生運動ばかりしてきたし、今後も運動だけで生きなければならないスポーツ特技者を中心に『個人損失の公平性』の側面からアプローチし、合理的な制度改善を模索しなければならない」韓国スポーツ政策科学院のキム・デヒ前任研究員は体育要員関連研究で次のように述べています。

キム研究員は研究で体育要員の拡大を主張することもあります。根拠はこうです。国家代表引退選手の引退後の無職比率は40%を超えています。体育選手にとって入隊はもうすぐ引退ですが、引退は無職ということです。昨年、大韓体育会が国会に提出した統計数値も似ています。無職41.9%、青年失業率(8.9%)の4倍を超えています。

スポーツ選手の失業は単に軍隊の問題ではありません。背景には学生の時から他の科目の授業も受けられないままひたすら運動だけに邁進しなければならない現実があります。

スポーツ評論家の鄭ユンス氏は京郷新聞のコラムで、「国威宣揚」を超えて選手を「競技場の外に」送り出すべきだと提案しました。

「この国のスポーツは70年代に『国威宣揚』と『大韓健児』という過剰な情熱を基盤に発展してきた。上命下僕の軍隊的編制と強圧的な位階秩序が長い間支配してきたが、数回の契機（特に2002韓日W杯のヒディンクシンドローム）にもかかわらず、この暴力的関係は慣行だとか性的だとか代案不在だとかいう言葉を口実に依然として頑強に作動している。この暴力関係は個人の創発性や自由意志の代わりに強力な統制と動員の方式で維持され、その最上位イデオロギーは「国威宣揚」という国家主義イデオロギーだ。不正と暴力はまさにこの古いシステムの傷だ」

鄭評論家は、開発時代から維持されてきた「国威宣揚」メッセージがスポーツの価値を「克己」「勝利」などに絞り込み、選手たちを競技場内に孤立させると言います。選手たちがメダルのためだけに育成され、成績至上主義と暴力にさらされるということです。

彼は「スポーツを競技場の外に出さなければならない」として「これはスポーツと社会の多重的交流、それにとまなう文化コンテンツ発現およびスポーツ産業の拡張に連結」されなければならないと話しています。

2020年、時代の流れに合わせて国民体育振興法の目的で「国威宣揚」が削除されました。共に民主党のイ・ビョンフン議員などは「体育が過去の開発時代の国威宣揚の道具として機能してはならない」「国民体育の目的が国威宣揚ではないという点を明確にする」ために法律改正を提案したと明らかにしました。体育選手を取り巻く文化や制度も、国ではなく「個人の幸福と誇り」を中心に次々と再編すべきではないでしょうか。兵役制度はもちろんです。

出典：<https://www.khan.co.kr/national/national-general/article/202310200700001>

02 スポーツ京郷 2023. 10. 23

障害者選手たち、彼らの立場にもう少し近づこう



非障害者は障害者スポーツ大会でメダルを取った選手たちを「英雄」と称えてきた。「非障害者大会ではメダリストが英雄だが、障害者大会は選手たちが皆英雄」という言葉も使った。記者たちは「障害を克服した」、「障害の中で奇跡を成し遂げた」という「もっともらしい」表現と共に障害が生じた痛い過去史と苦しい過程を「詳しく」伝えたりもした。2002年から今回の杭州まで6回連続障害者アジア大会に出場したベテランのユ・ビョンフン（51）は「隠したい過去が明らかになったが、その時は選手たちが少しでも関心を受けることで十分だった」と振り返った。

杭州障害者アジア大会が22日開幕し、1週間行われる。記事がたくさん殺到するだろう。選手たちのストーリーもよく紹介されるだろう。障害者種目への関心度も、以前のように多少一時的だろうが、とにかく高まるだろう。障害者スポーツをどう理解すればいいのか。痛手や誤解無しに障害者と障害者の選手たちをもう少し近く知る方法はないだろうか。

まず、「障害を克服する」という言葉は控えよう。障害者が納得しない代表的な表現だ。障害は克服できるものではない。一生不便を甘受しながら生きていくことだ。障害が生じた過程にあまり集中しないようにしよう。人生で一番嬉しい日、あえて痛い過去を「詳しく」尋ねたり、「詳しく」知ろうとしないのはどうだろうか。ただ運動選手としてだけ見ればいいんじゃないかな。

今はだいぶなくなったが、障害を「非正常」と言う人がまだいる。正常、非正常は良し悪し、正しい間違い、という価値を持つ。障害に対して「非正常」という言葉を使ってはいけない理由だ。障害者という言葉ももう使わない。啞、かたわ、びっこ、めくら、あきめくら、めくらが象の足を触る、も避けなければならない表現だ。ほとんど純韓国語だが、慣習的に身体欠損を戯画した表現で使われたためだ。悩みなく常套的に使う表現が差別と卑下の意味を込めて固定観念を深化したり再生産することを認知しなければならない。

「障害者を配慮する」という言葉も不快に思う障害者が少なくない。その表現自体が差別だという意見もある。「社会的弱者を配慮しなければならない」という表現は大丈夫だが、それを障害者にポンとつけて使うのは間違っているのではないか。思いやりは障害者、非障害者の区別なく、すべての人間に必要な。配慮は相手が望む方式で行われなければならないのは言うまでもない。

障害者選手が望むことは何だろうか。特別な待遇、特別な扱い、違う。ただ人間として、人として、選手として見てほしいということ、それがすべてだ。過度な称賛は、彼らをまるで変な存在であるかのように他者化するとともに、障害者に無関心な非障害者が自己満足しようとする行動になりうる。

杭州派遣記者らは慎重に取材する。記事要件上、やむを得ず伝えるしかない障害が生じた過去史をできるだけ減らし、感動が少なくても乾燥に記事を書こうと思う。痛い過去、隠したい個人史が大衆に過度に現れることを好む人はいない。記事が「面白さと感動が少なくとも」理解して読んでくれることを願う。人は誰でも障害者だ。少なくとも潜在的に障害者だ。障害者と非障害者は究極的に同じだ。これを冷静だが、現実的に認めれば障害者を見る考えが大きく変わるだろう。友人のように、隣人のように、同情しすぎず、誇張しすぎず、静かで地道に一緒にいるのが同じ人同士と一緒に暮らす人生の全てではないか。

出典：https://sports.khan.co.kr/sports/sk_index.html?art_id=202310230900013&sec_id=530101&pt=nv

03 JTBC 2023. 10. 20

選手をいじめた指導者名簿公開「0件」・・・文化体育観光部「法が曖昧で」



[アンカー]

ショートトラックのチョ・ジェボムコーチが選手を持続的に性的暴行したことが明らかになり、監督から長い間いじめられたとしてトライア

スロン国家代表のチェ・スクヒョン選手が自殺すると、政府はこのように選手をいじめて有罪判決を受ける指導者のリストを公開するとして新しい法まで作りました。ところが、私たちが確認したところ、施行されてから2年半になりますが、たった1人も公開されていません。

ソン・ウヨン記者が取材しました。

[記者]

故チェ・スクヒョン選手の父親は娘を亡くした悲しみが残っている他の選手たちを心配しました。

[チェ・ヨンヒ/故チェ・スクヒョン選手のお父さん(2020年7月):これからこの地にスクヒョンのように悔しい思いをする運動選手がこれ以上出ないように…]

ショートトラックのシム・ソクヒ選手もコーチに性犯罪にあったことが知られるなど世論が沸き起こると、2021年6月の国民体育振興法に新しい法条項が盛り込まれました。選手を苦しめたり、スポーツ界の不正を犯して有罪判決を受けた指導者の名簿を公開する内容です。

当時、文体部は大々的に報道資料も出しました。しかし、現在までリストが公開された指導者はいないことが分かりました。その間、計1695人が犯罪で指導者資格が取り消されましたが、シム・ソクヒ選手に性的暴行を加えたチョ・ジェボムコーチやチェ・スクヒョン選手を苦しめ懲役7年を受けたキム・ギョボン監督の名前も公開されませんでした。

文体部は一步遅れて法が曖昧で仕方がないという立場です。

「体育界人権侵害」や「スポーツ不正」にどんな犯罪が該当するのか明確ではなく、有罪も「禁錮以上の刑」等に具体化されてこそ適用できるということです。

「まもなくより明確な改正案を出す計画だ」と付け加えました。

[リュ・ホジョン/国会文化体育観光委員会:(政府が)その後手を拱いていたということですね、たった1件もなかったということは。足りない点があれば議員に要請したり政府立法をしたり色々な方法があったにもかかわらず…]

出典：<https://www.youtube.com/watch?v=HBuw28z8j-o>

04 時事 IN 2023.10.21

「お姉さんたち」のバレーボール授業、ホホ体育館をご存知ですか？



地面を見て仕事をしていた「お姉さんたち」が空に向かって手をさっと上げた。手首が赤く腫れるほど力いっぱい打ち上げたボールが床から飛び跳ねた。10月20日、西江大学校体育館で女性清掃労働者を対象とする「ホホ体育館」バレーボール授業が行われた。

ホホ体育館は文化連帯代案体育会で女性清掃労働者を対象に昨年11月に始めたプロジェクトだ。「皆のためのスポーツ」を旗印にスポーツから疎外された労働者、女性、移住民、性少数者を招待した。彼女らのスポーツ権利を見つけ、社会的に認識させようという趣旨で企画した。2020年6月、スポーツ界の慢性的な弊害に対抗して戦ってこの世を去った慶州市庁トライアスロンチームの故チェ・スクヒョン選手事件以後、企画が始まった。その事件以後、変化の流れが起きたが、すぐに消えていくようだった。文化連帯は「スポーツ政策が人権、公正、平等、多様性のような価値を基盤としなければならない」という点を市民に知らせていくことにした。

最初の対象者は清掃労働者だった。見えないところで労働をしているが、いざ自分の体の世話ができない存在だった。プロジェクトチームは、学校の施設管理者、学生、外注業者と協力した。西江大学人権実践会のノゴジリ（訳注：ヒバリの古語）の学生たちが積極的に支援した。腰を曲げて床を掃いていた労働の場所が運動の場所になる瞬間だった。

ホホ体育館の最初の授業はヨガで始まった。25人が申請した。2022年11月3日から12月15日まで毎週木曜日40分ずつ行われた。反応は熱かった。2023年3月にヨガ2期授業につながった。おばさん、お母さん、女史（ヨサニム）と呼ばれていた呼称は、ホホ体育館の授業だけは「お姉さん」に統一した。時間が経つにつれ、体をより多く動かす運動をしようという意見が集まった。2023年3月24日、西江大学体育館でバレーボールの授業が開かれた。昼休みに集まった10人の視線は、床ではなく空に向かった。

第2期バレーボールの授業は10月13日金曜日に始まった。浦項バレーボール実業チームを担当しているキム・ヒョンジュ監督が2期授業を担当した。プロジェクト開始段階から支援した西江大人権実践会のノゴジリと校内誌<西江>で活動する学生5人も参加した。1期からバレーボールの授業を受けているチョン・チャンホンさん（62）は、他の新生より姿勢が良かった。西江大学で10年間勤務する彼女は「とても運動するのが好きなのに昼休みに休憩室に座っていると窮屈でした。今は血液循環もよく、体が軽い感じです」と話した。チョンさんは次のプログラムに自分の好きなダンス授業ができることを願っている。

ホホ体育館プロジェクトを担当する文化連帯のパク・イヒョン活動家は「毎回授業現場で感じられる清掃労働者のエネルギーに驚く」と話した。今後、より多くの人々がホホ体育館に参加することを希望する彼は「スポーツと遠く離れている人々もスポーツが基本的な権利の一つだという認識を持ってほしい」と話した。ホホ体育館第2期バレーボール授業は12月22日まで行われる。

出典：https://www.sisain.co.kr/news/articleView.html?idxno=51434#google_vignette

05 スポーツワールド 2023. 10. 20

全国体育大会、7日間の熱戦仕上げ・・・MVP ファン・ソンウ



国内最大のスポーツ総合競技大会「第104回全国体育大会」が19日、木浦総合競技場で閉会式を行い、7日間の大会日程を成功裏に終えた。

和合・感動・希望・安全を目標に開催された今回の全国体育大会は、17市・道の計49種目（正式47、試験2）2万9955人の選手団（選手2万8477人、役員1478人）と米国、日本、ドイツなど18カ国1458人の海外同胞選手団が参加した中で熱い熱戦が繰り広げられた。

大会記録としては韓国新8個、韓国ジュニア新4個、韓国ジュニアタイ2個、大会新78個、大会タイ4個の計96個の記録を達成し、多冠王の場合は7冠王1人、5冠王4人、4冠王13人、3冠王30人、2冠王169人を輩出した。

市道別総合順位では京畿道がメダル合計424個、総得点6万4856点を記録して総合優勝を占め、続いてソウル特別市が5万3042点で総合2位、慶尚北道が5万1445点で3位に上がった。在外同胞総合順位では在米国大韓体育会選手団が1位、在日本大韓体育会選手団が2位、在インドネシア大韓体育会選手団が3位を占めた。前大会の成績と比べて格段に成績が向上した市・道に授与する成就賞は全羅南道(1位)、済州特別自治道(2位)、忠清南道(3位)に贈られた。また、大会期間中に最も模範となった選手団に授与する模範選手団賞は江原特別自治道選手団が選定された。大会期間中、競技を円滑に進めた団体に授与する

会員種目団体秩序賞は、大韓スカッシュ連盟（1位）、大韓近代五種連盟（2位）、大韓自転車連盟（3位）が受賞した。

今大会の最優秀選手（MVP）には大会5冠王を達成した競泳の黄ソンウ、20、江原道庁）が韓国体育記者連盟所属記者団の投票によって選ばれた。前回の杭州夏季アジア大会（以下「杭州アジア大会」）で優秀な技量を披露し、総メダル6個（金2、銀2、銅2）を獲得するなど、大韓民国水泳の「黄金世代」をリードしている黄ソンウは102回・103回大会に続き3年連続でMVPに輝いた。3連続MVPは全国体育大会史上初めてだ。今年の体育大会では100m自由形、200mリレー、400mリレー、400mリレーで金メダルを獲得した。

黄ソンウは「今回の全国体育大会で一般部として初の5冠王を獲得し、体育大会で初めて3年連続MVPに輝いたことが非常に意味深い」と伝え、「コンディションが良くなかったにもかかわらず良い成績を収めることができ感謝しており、近づく選抜戦をはじめパリ夏季五輪でも良い姿をお見せできるよう努力する」と抱負を伝えた。

また、今大会では前回の杭州アジア大会で優れた技量を披露した選手たちが多数出場し、国民にスポーツを通じた喜びと感動を伝えた。

杭州アジア大会3冠王に輝き、韓国選手団MVPに選ばれた金ウミン（22、江原道庁）選手は自由形400メートル・1500メートル・リレー400メートル・800メートルで1位となり、4冠王に輝いた。同じく杭州アジア大会3冠王でMVPだったアーチェリーのイム・シヒョン（20、韓国体育大学）は今回の体育大会で優秀な実力を発揮し、3冠王に輝いた。水泳の金ソヨン（29、慶尚北道庁）は200メートル個人メドレー、400メートルリレー、800メートルメドレー400メートルで5つの金メダルを獲得し、5冠王に輝いた。

大会7冠には体操のムン・ムンヨン（17、光州体育高校）が上がり、鉄棒、平行棒、按摩、リング、床運動、跳馬、個人総合ですべて金メダルを獲得して大韓民国体操のバラ色の未来を予告した。高校有望株の水泳崔カンイン（17、栗谷高校）とホ・ヨンギョン（18、バンサン高校）も5冠王に輝いた。このように多くの選手の活躍で、今後の大会はもちろん、9ヵ月後に迫った2024年パリ夏季五輪への期待感を高めた。

今年の全国体育大会は歴代最多人数である2万9955人が参加した大会で、いつにも増して熱い熱気の中で繰り広げられた。また、多彩な付帯行事を開催し、スポーツに対する国民の関心向上にも努めた。大韓体育会では大会中にESG経営本部・スポーツ英雄・スポーツ情報化・スポーツクラブ・スポーツ人権広報館を運営し、10月13日スポーツ人権の日記念行事を開催しスポーツ人権尊重文化拡散のために努力した。

また、選手団および大会関係者全員が参加する大々的なESGキャンペーンも行った。エコ

(Environment)大会運営のために17市・道体育会、49種目団体は競技記録電算化、Noプラスチック運動など環境保護実践に積極的に参加し、参加者安全(Social)管理にも格別の努力を傾けた。団体別に独自の安全マニュアルを製作して事故予防と対応ができるようにし、スポーツ安全財団と共に危険要素を点検し改善した。公正性保障(Governance)次元で33種目の競技映像を撮影し、21種目119人の常任審判が活躍した。また、選手団IDカードと競技場の随所に八百長防止メッセージが盛り込まれたハングルポップアート(イ・デイン作家提携)ポスターを貼り付けて公正な大会雰囲気を作り、八百長警戒心を生々しく伝えた。

イ・ギフン大韓体育会長は閉会の辞を通じて「今回の全国体育大会は杭州夏季アジア大会以後、多くの国民の関心と応援の中で開かれたスポーツ祭りであり、歴代最多選手団が参加して国内スポーツの内実を固め、広くなったスポーツの底辺を確認できた意味深い大会だった」と伝え「今後も選手、指導者を含むすべての国民がスポーツ基本権を享受できるよう支援を惜しまない」と強調した。

出典：<https://www.sportsworldi.com/newsView/20231020511246>

06 週間スポーツニュース

先輩のキム・ヨンギョンを狙ったイ・ダヨン、2枚の写真を載せて残した一言

<https://www.mk.co.kr/news/society/10855245>

ロシア「五輪中立国参加は恥」反発…IOC「憲章違反の結果」

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20231020133651080?input=1195m>

サウジアラビア、2035年女子ワールドカップ（W杯）の誘致にも乗り出すか

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20231020022300007?input=1195m>

サノフィ、フットサルでホームレスの自活を助ける

<https://www.segye.com/newsView/20231017511249?OutUrl=naver>

教室外の体験学習で心も体もすく育つか

<https://www.ulsanpress.net/news/articleView.html?idxno=514471>

6キロ走ればアフリカに植樹寄付…ワールドビジョン「G6Kランニング」に5000人参加

<https://futurechosun.com/archives/81184>

ムン・サンピル大韓障害者射撃連盟会長、障害者スポーツ活動と権益保護の先頭に…「子供たちは私たちの未来だ」

<https://www.psnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=2035762>

「スポーツは人権だ」…仁川市体育会スポーツ公正室、手作りユニフォームを着て競争現場で「相互尊重」キャンペーンに注目

<https://www.incheonilbo.com/news/articleView.html?idxno=1215679>

超高度文明社会におけるスポーツ価値

https://www.korea.kr/news/contributePolicyView.do?newsId=148921586&call_from=naver_news

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>